

医学教育分野別評価基準日本版 V2.33 に基づく

福岡大学医学部医学科

年次報告書

令和 4(2022)年度



福岡大学

医学教育分野別評価 福岡大学医学部医学科 年次報告書

2022年度

医学教育分野別評価の受審 2018（平成30）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.2

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33

はじめに

本学医学部医学科は、平成30年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2020年11月1日より 7 年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33 を踏まえ、2022年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2021年 4月1日～2022年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ FU-RIGHT に学生が「教育的指導ができる」というコンピテンシーを示していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ ディプロマ・ポリシーと FU-RIGHT の6つのコンピテンスとの整合性を検討すべきである。
- ・ 卒前教育のコンピテンス獲得が臨床研修での学修に不可欠であることを学生が理解できるよう、コンピテンシーについての説明を追記すべきである。
- ・ 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、そして家族を尊重し適切な行動をとることを修得するために、行動憲章や行動規範を策定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ FU-RIGHTの改訂案を作成中であり、卒後臨床研修の到達目標と整合性を持たせるため、福岡大学病院卒後臨床研修センターと協議の上、改訂版を作成し、学内および学外の医学教育関係者から意見を求める計画である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1-3-1：2021年度学修要項（FU-RIGHT）
- ・ 資料1-3-2：FU-RIGHTの評価表案

1. 4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ FU-RIGHT 作成時に、パブリックコメントを募ったこと、卒業生の業績調査を行ったことは評価できる。

改善のための助言

- ・ 次期の改訂時には、さらに若手教員、学生などが参画できるようにすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 使命と成果策定に学生を参画させるため、医学教育推進講座の研究室配属で配属された第二学年の学生とFU-RIGHTの改訂について討論した。しかし、学習成果基盤型カリキュラムの理解で終わり、学生が改訂案への意見を出すまで到達せず、カリキュラムについて学生に周知することが必要との意見があった。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1-4-1：医学教育推進講座M2研究室配属課題
- ・ 資料1-4-2：学生発表スライド①
- ・ 資料1-4-3：学生発表スライド②

2. 教育プログラム

2. 1 プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 卒業時コンピテンシーを FU-RIGHT として謳い、1年次から6年次までを通じて、それを達成する段階と学修方略を「学修成果達成レベル表」として、2018年度からシラバスに掲載していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 学修意欲向上のための学修方略を導入しているが、その効果を組織的に検討すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全学的には遠隔授業が主体となったが、医学科の講義および実習については、医学科教授会議の了承のもとに、原則対面で実施し、医学科授業アンケートについても実施した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い導入した遠隔講義（原則、全ての講義を録画し、録画データをアップロードするオンデマンド型）については満足度が高く、自己学習に有効なため継続を希望する意見が多かった。このため、講義の録画を継続し、講義資料と共にオンデマンド配信を継続している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-1-1：2021年度授業評価アンケート
- ・ 資料2-1-2：医学科教授会議議事録（令和3年3月10日）
- ・ 資料2-1-3：全学授業アンケート（FURIKA2021年度前期）
- ・ 資料2-1-4：全学授業アンケート（FURIKA2021年度後期）

2. 2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 分析的で批判的思考と科学的手法の原理を1年次から臨床実習にかけて段階的に学生が修得できるようにカリキュラムを整えるべきである。
- ・ 臨床実習において EBM を実践できる教育を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 第一学年の「行動科学Ⅰ（研究室配属）」で各教室の研究の概略について学び、第二学年前期の「グローバル人材演習」で英語論文の読み方を学習する。第二学年後期の「研究室配属」で4週間研究を行い、研究倫理、研究手法、遺伝子組み換え実験、動物実験、放射性元素実験の基礎知識を学び、各研究室で課題解決に取り組む。一部の学生は学会発表、論文作成を行うことで、研究成果を発表する技能を身につける。第三学年前期の公衆衛生学「EBM実習」では、臨床の疑問点を定型化し、文献検索を行い、実際の患者さんに当てはめる実習を

行っている。第四学年後半から第六学年で行う臨床実習では、担当患者の診断や治療についてガイドラインや論文で調べ、臨床の場やカンファレンスで発表することでEBMを実践する技能を習得する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-2-1：JAMeS 2022医学生業績報告書
- ・ 資料2-2-2：2021年度学修要項（第一学年「行動科学Ⅰ（研究室配属）」）
- ・ 資料2-2-3：2021年度学修要項（第二学年「グローバル人材演習」）
- ・ 資料2-2-4：2021年度学修要項（第二学年「研究室配属」）
- ・ 資料2-2-5：2021年度学修要項（第三学年「公衆衛生学」）

2.3 基礎医学

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 「現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること」を6年一貫医学教育のなかで検討し、カリキュラムを見直すことが望まれる。
- ・

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ カリキュラム検討委員会を編成し、医学部医学科教務委員会及び医学科教授会議で報告案を検討する。
- ・ 倫理観、医療安全、チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などのニーズに対応できる知識・技能を修得するために、第一学年から行動科学、社会科学、学修基盤科目等の教育を履修できるようにカリキュラム改訂を進めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-3-1：医学科教授会議議事録（令和2年11月11日）
- ・ 資料2-3-2：2021年度学修要項（第一学年「行動科学Ⅰ」）

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 行動科学・医療倫理学・医療法学は、多くの科目のなかで授業が行われているが、これらの科目の重要性を学生が理解できるよう教育の内容と順次性を見直すべきである。
- ・ 医療心理学、医療社会学をカリキュラムに追加すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 第一学年から継続して医療倫理学、プロフェッショナリズム、コミュニケーション、医療心理学、社会医学等について学習することができるように、2021年度カリキュラムに第一学年で「行動科学Ⅰ」、第三学年で「行動科学Ⅱ」、第四学年で「行動科学Ⅲ」の講義科目を新設することを決定した。社会人類学、心理学、弁護士、福岡大学病院看護部長も教員として参加して講義を担当する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-3-2：2021年度学修要項（第一学年「行動科学Ⅰ」）
- ・ 資料2-4-1：2021年度学修要項（第三学年「行動科学Ⅱ」）
- ・ 資料2-4-2：2021年度学修要項（第四学年「行動科学Ⅲ」）

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 大学病院職員に求められている医療安全講習会などの受講を臨床実習中の学生に義務づけている。

改善のための助言

- ・ 臨床実習ではFU-RIGHTに沿った到達目標を設定して、学生の到達度をモニタすべきである。
- ・ 多様な臨床教育施設での地域医療、プライマリ・ケアの実習を行うべきである。
- ・ 重要な診療科（内科、外科、精神科、総合診療科/家庭医学、産婦人科および小児科）の実習期間を十分確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 現在は内科で4週間の臨床実習を実施している。外科、精神科、産婦人科、小児科、総合診療科等でも4週間の臨床実習を確保する目的で、現在カリキュラム改訂を行っている。このうち、福岡大学筑紫病院では外科、小児科での4週間の臨床実習が可能となった。
- ・ 臨床実習でのFU-RIGHTの到達度評価として、その到達度の評価する全診療科共通の臨床実習評価票を作成し運用している。
- ・ 多様な臨床教育施設での地域医療、プライマリ・ケアの実習を行うために、学外臨床実習の

整備を進め、福岡大学西新病院および民間の7病院を実習先として選定した。2022年度からこれらの教育施設での実習を開始する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-5-1：医学科教授会議議事録（令和3年10月13日）
- ・ 資料2-5-2：臨床実習評価票
- ・ 資料2-5-3：令和3年度第4回医学教育ワークショップ案内通知

2. 8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 卒前、卒後の医学教育プログラムの一貫性を持った学修成果基盤型教育にしていくべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 卒前と卒後の医学教育プログラム責任者が共同で教育計画を検討する委員会を立ち上げる。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。
- ・ 教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学生が頻度の高い症候・疾患や、初期・二次救急、一般レベルの検査治療などを経験するために、地域医療機関での臨床実習の機会を増やす準備を行い、福岡大学西新病院および学外7施設で2022年度から実習を開始することにした。これらの医療機関において教育に

従事する医療者に教育プログラム検討委員会に参加してもらい、意見を募ることを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-5-1：医学科教授会議議事録（令和3年10月13日）

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 技能および態度の評価を確実に実施すべきである。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないよう規約を整えるべきである。
- ・ 学内で行われている科目ごとの試験の信頼性と妥当性を確保するため、外部の専門家によって評価を吟味すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 科目試験の評価（試験結果、合否判定）の信頼性・妥当性を確認することを目的に、2020年度より成績評価検討会議を実施し、本年度も継続している。
具体的には、学年ごとに講義・実習を担当する全ての科目責任者もしくは副責任者、医学部長、教務委員、医学教育推進講座責任者、各学年主任、医学部事務課が参加し、各科目の試験の難易度、合否判定基準、進級判定が適切であるかを全員で評価・確認している。
- ・ 2020年度より科目責任者は、評価の対象となる学生の中に親族がいる場合は自己申告し、その学生に対する評価からは外れ、それ以外の全員で当該学生に対する評価の信頼性・妥当性を確認することで、信頼性を担保している。
- ・ プロフェッショナルリズム、診療技術・患者ケア、チーム医療を実践する技能や態度の到達度を評価する目的で、臨床実習評価表を作成している。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い導入を見合わせが、2021年度から全診療科で評価を開始し、形成的評価を継続して行っている。さらに、外部の専門家として、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 医歯学教育開発センター長 田川 まさみ教授を2021年度 第3回 医学教育ワークショップに招聘し、「試験と妥当性の評価」という内容で講演して頂き、その後、評価に関してアドバイスを頂いた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料3-1-1：令和3年度成績評価検討会議案内通知

- ・ 資料2-5-2：臨床実習評価票
- ・ 資料3-1-2：令和3年度第3回医学教育ワークショップ案内通知

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 多様な入学選抜が行われている。

改善のための助言

- ・ 身体に不自由がある学生の受験にあたり、入学後の支援について受験前に相談できる体制を構築すべきである。

追加審査

- ・ 2018年11月22日に文部科学省による「医学部医学科の入学者選抜における公正確保等に係る訪問調査」の結果、入学試験の種別の一部において年齢による不適切な加点を行っていると指摘され、同年12月14日の文部科学省が公表した「医学部医学科の入学者選抜における公正確保等に係る緊急調査の最終まとめ」において不適切な事案として報告された。この結論は「学生の選抜方法についての明確な記載を含め、客観性の原則に基づいて入学方針を策定し、履行しなければならない」（B4.1.1）に抵触するものであり、審議を停止して、改善状況を確認することとした。
2019年8月19日に福岡大学医学部関係者に対してヒヤリングを実施し、福岡大学医学部が「医学部医学科入試制度調査委員会」による調査によって社会的説明責任を果たし、2019年度入学者試験選抜において公正に実施されていることを確認した。さらに、2020年度の学生募集要項に公正確保が明示されていることを確認した。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 入試ガイドにおいて「受験上の配慮を希望する方々へ」と「就学上の配慮・支援・相談を希望する方々へ」を受験要綱に記載し、学生課が担当することを明記している。
- ・ 入学者選抜（筆記および面接試験）の評価等と、入学後の態度・評価との関連を検討する医学部独自のIRを実施し、その結果を教員間で共有するとともに、選抜方法の改善を検討している。
- ・ 令和2年度に面接評価におけるルーブリック評価表を導入し、令和3年度に見直しをおこなったことにより、面接試験においてさらなる透明性・公平性・客観性を確保するよう努めている。
- ・ 令和元年度に学内、学外の委員で構成する医学科入試検討委員会を立ち上げ、令和3年度には第3回医学科入試検討委員会議を開催し、入学者選抜の公平性・客観性が保たれているこ

とを確認するとともに、選抜方法の改善を検討している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料4-1-1：福岡大学入試ガイド2022
- ・ 資料4-1-2：第3回医学科入試検討委員会議事録
- ・ 資料4-1-3：令和3年度第2回医学教育ワークショップ案内通知

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 新しいアドミッション・ポリシーを早急に公表することが望まれる。

追加審査

- ・ 入試改革に伴い、「受験上の配慮を希望する方々へ」と「就学上の配慮・支援・相談を希望する方々へ」を受験要綱に記載し、学生課が担当することを明記したことを確認した。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 新しいアドミッション・ポリシーはホームページおよび入試ガイドで公表している

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料4-1-4：福岡大学医学部医学科アドミッション・ポリシー
<https://www.fukuoka-u.ac.jp/pdf/disclosure/policy/undergraduate/18APMM.pdf?20180420>
- ・ 資料4-1-1：福岡大学入試ガイド2022

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 担任制度、医学教育センターならびに総合大学としてのヒューマンディベロップメントセンター、健康管理センターなど複数のカウンセリング制度により学生を支援していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 1年生、2年生の学修支援を拡充すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学部医学科教務委員会・学生委員会において個別に問題を取り上げている。第一学年、第二学年に対しても教務委員、医学教育推進講座、各学年の担任を中心に成績不振者への個別指導を行っている。新二学年生に対しては、オリエンテーションにおいて、GPA分布表を用いて指導を行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料4-3-1：令和3年度成績発表日程調整表
- ・ 資料4-3-2：令和3年度オリエンテーション資料（GPA分布表）

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラム実践に必要な教員の採用に関する方針を策定すべきである。
- ・ 新規教員採用にあたり、その教員の役割とカリキュラムにおける責任を明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教授採用に関しては、求める教授像を選考委員会で議論し、カリキュラム実践に必要な講座主任を全国公募している。准教授以下は、教授の采配でカリキュラム実践に必要な教員組織を編成している。
- ・ 教授採用に関しては、候補者公募要項にその教員の役割を記載し、審査過程の提出書類およびプレゼンテーションにおいて医学教育についての評価を行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料5-1-1：教授候補者公募文書
- ・ 資料5-1-2：教授選考意見発表講演依頼

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教員の募集および選抜の方針において、地域固有の問題も含め、医学部の使命との関連性について明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 入職時に地域固有の問題も含め、医学部の使命との関連性についてガイダンスを行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料5-1-3：新任教員ガイダンス開催案内

5. 2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 実地調査で全教員の教育、研究、臨床に関わるエフォート率を大学が把握していることが確認された。全教員の教育実績を大学が把握していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 各教員の講義時間数、実習指導時間などの実績を教員評価のデータとして活用すべきである。
- ・ 教員のFDへの参加率を高め、カリキュラムの理解を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 各教員の講義時間数、実習指導時間などの実績は学修要項から算出し評価可能である。現在、医学部IR部門を編成中で今後課題の対応を行う。
- ・ カリキュラムの理解を促すために、定期開催の「医学部医学科教務委員会、入試委員会、学生委員会、FD推進委員会」を行っている。新任教授や、医学部長が指名する教員については、オブザーバーとして参加を促し、啓発に努めている。
- ・ オンラインによるFD参加の環境を整えることで、教員のFDへの参加者数の増加を促している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料5-2-1：2021年度医学部医学科教務委員会、入試委員会、学生委員会構成員
- ・ 資料5-2-2：令和3年度医学教育ワークショップ案内通知
- ・ 資料5-2-3：医学教育ワークショップ参加者数

6. 教育資源

6. 2 臨床トレーニングの資源

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生がプライマリ・ケアや外来の臨床経験を積むために必要な資源を十分に確保すべきである。

- ・ 筑紫病院の一次、二次救急をはじめ、十分な患者数と疾患分類を学生が経験できる臨床実習の場を確保すべきである。
- ・ 臨床実習の場の多様性を確保するために地域の医療施設と連携していくべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ M4・M5クリニカルクラークシップⅠでは、救命救急センター実習の中で、一次・二次救急患者の実習や重症患者のPrimary Careを経験する機会として福岡赤十字病院での実習を実施しており、プレホスピタルケアの重要性を経験する機会として救急車への同乗を実施している。（※2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となっている）
- ・ M4・M5クリニカルクラークシップⅠでは、福岡大学病院と受診する患者群が異なる福岡大学筑紫病院で2週間の臨床実習を実施し、プライマリ・ケアや外来の臨床経験を積んでいる。
- ・ M6クリニカルクラークシップⅡでは、福岡大学病院だけでなく、福岡大学筑紫病院・福岡大学西新病院での4週間の実習が選択でき、消化器や循環器、呼吸器など主要な内科外科疾患の実習が可能な場を確保している。
また、M6学生は希望する学外病院での臨床実習を申し込むことが可能であり、先方の病院から了承が得られれば、クリニカルクラークシップⅡの期間で実習を行うことができる。
- ・ 2022年度からは、上記に加え、M5クリニカルクラークシップⅠにおける7つの地域医療施設での学外臨床実習を開始する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料6-2-1：2021年度クリニカルクラークシップⅠシラバス
- ・ 資料6-2-2：2021年度クリニカルクラークシップⅡシラバス
- ・ 資料2-5-1：医学科教授会議議事録（令和3年10月13日）

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 診療チームの一員として学生が電子カルテに記載できることが望まれる

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学生が診療内容を電子カルテに記載し、指導医が承認できる様に電子カルテの改編を検討中である。

改善状況を示す根拠資料

なし

7. プログラム評価

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ プログラム評価の意義を十分に説明して、より多くの教員・学生からのフィードバックを求めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 臨床実習前の学生については、医学科独自の授業評価アンケートおよび全学授業アンケートシステムFURIKAを用いた授業アンケートを行った。また、臨床実習を行う学生については、各科目のカリキュラム、臨床実習の学習成果到達度および各診療科の診療参加型臨床実習プログラムに関するアンケートを行った。
- ・ これらのアンケート結果について、各科目・各診療科の教員にフィードバックを行った。さらに、教員に対しては、そのフィードバックをもとにしたアンケートを行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-1-1：2021年度授業評価アンケート
- ・ 資料7-2-1：2021年度クリニカルクラークシップアンケート
- ・ 資料7-2-2：2021年度教員の自己評価アンケート
- ・ 資料2-1-3：全学授業アンケート（FURIKA2021年度前期）
- ・ 資料2-1-4：全学授業アンケート（FURIKA2021年度後期）

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生と卒業生の学修成果（FU-RIGHT）に沿った実績に関する情報を組織的・定期的に収集して、使命と期待される学修成果、カリキュラム、資源の提供の観点から分析を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 共用試験の本学および全国平均、国家試験の模擬試験成績、卒業試験と国家試験成績などをIRで解析し、学生への学習支援に利用している。
また、福岡大学病院卒後臨床研修センターと協力して、研修先決定にアンケートと卒業時のFU-RIGHTに対する自己評価アンケートを施行した。一方で、過年度の卒業生の業績へのアンケートも、医学部同窓会と協力して企画したいが、度重なる新型コロナウイルス感染症拡大に伴い医業が圧迫されており保留となっている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料7-3-1：福岡大学医学部卒業生2021年度初期研修アンケート調査

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ より多くの卒業生の実績を収集して分析することが望まれる。
- ・ 学生の実績に関するIRデータを分析しカリキュラムや学生カウンセリングの改善点を関連する委員会にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 卒業生の在学中の卒業試験、模擬試験、医師国家試験の関係を解析し、各学年の担任に情報を提供し、学習支援のカounselingに用いている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料7-3-2：令和3年度国試対策委員会議事録（第1-2回）

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全学と医学部の両者に設置されている教育関係委員会組織において、医学部委員会での決定事項が全学委員会によって制約等を受けないよう、両者が整合性を持って機能している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全学的には遠隔授業が主体となったが、医学科の講義及び実習については、医学科教授会議の了承をもとに、原則対面で実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-1-2：医学科教授会議議事録（令和3年3月10日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医学部医学科外部評価・問題検討委員会が活動を開始している。さらに広い範囲の教育の関係者の参加を検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学科入試に関しては、検討委員会の委員に本学入学センター事務職員に加えて弁護士、他大学医学部長、一般市民代表が参加している。
- ・ 医学教育検討委員会として学外臨床実習先の医師や他大学の医学教育担当者に参加してもらうことを検討している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料4-1-2：第3回医学科入試検討委員会議事録

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 講座配分費における教育関係予算を明らかにし、その執行状況を確認する仕組みを構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 各講座に配分する予算のうち、医学教育関連予算の比率を明確にし、執行状況に関して年度報告を行うことを検討中である。

改善状況を示す根拠資料

なし

8. 4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医学教育の複雑化に伴い、医学教育事務部門の業務が拡大しており、円滑な医学教育を実施するために、教員と職員の連携を強化していくべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学部教務・学生事項に関し、医学部長は、医学部事務部長、課長、課長補佐と連日決裁業務にあわせ報告・検討会議を行っている。
- ・ 緊急対応も含め問題発生時は医学部長ガバナンスにより教務・学生・各学年主担任、副担任等の各種委員・担当者を招集し臨時会議に当たっている。
- ・ 年4回開催している医学教育ワークショップに事務職員も参加し、医学教育の現状、カリキュラム等について意識の共有に努めている。
- ・ 各講座に教育技術職員が1名、医学教育推進講座（教育計画部含む）に5名教育技術職員が在籍しており、OSCEなどの共用試験にも関わっている。
- ・ 医学教育推進講座（教育計画部含む）の教育技術職員はFDにも参加している。また、教育に関する教授会での決定事項の情報も共有している。
- ・ 医学教育推進講座（教育計画部含む）の5名の教育技術職員は、日本医学教育学会の会員となり学会活動にも参加している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料8-4-1：OSCE教育技術職員配置表

8. 5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い福岡大学病院医療安全管理部と連携した医学科学生への遠隔による医療安全教育の受講と受講確認の方法を共有した。
- ・ 医学科学生の新型コロナウイルス感染が判明した場合、濃厚接触者の早期PCR実施、自宅待機の指示などを福岡市城南保健所と連携し対応を協議した。
- ・ スチューデント・ドクター等の医学部生に対する新型コロナウイルスワクチン優先接種においては、医学部ならびに病院部門が連携し実施した。
- ・ 感染医療人材養成事業の一環として、城南保健所、福岡大学病院感染制御部、看護学科と連携して学内外の医療者及び学生に向けたセミナーを行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料8-5-1：2021年度医療安全教育案内およびアンケート
- ・ 資料8-5-2：令和3年度第1回医学教育ワークショップ案内通知
- ・ 資料8-5-3：COVID対策実践講習会ポスター

9. 継続的改良

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ IR部門（FU-MIRAI）および医学教育評価委員会、医学部医学科外部評価・問題検討委員会を立ち上げ、教育プログラム全体を評価・改善するためのPDCAサイクルを開始している。

改善のための助言

- ・ IR部門（FU-MIRAI）および医学教育評価委員会、医学部医学科外部評価・問題検討委員会による教育プログラム全体の評価・改善システムを実働させることによって、今後、教育プログラムの継続的改良に努めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 福岡大学では、毎年、各学部の自己点検評価を行い、大学が情報公開を行っている。
- ・ 外部委員を入れた医学科入試検討委員会では、IR解析結果をもとに面接試験の評価方法を検討し、面接評価にルーブリック評価などを導入し改善している。
- ・ 入学者選抜（筆記および面接試験）の評価等と、入学後の態度・評価との関連を検討する医学部独自のIR結果を教授会および医学教育ワークショップにおいて報告し、全教員の間で共有している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料4-1-2：第3回医学科入試検討委員会議事録
- ・ 資料4-1-3：令和3年度第2回医学教育ワークショップ案内通知